

各 位

会社名 アンジェス MG 株式会社  
代表者 代表取締役社長 山田 英  
(コード番号 4563 東証マザーズ)  
問合せ先 経営企画部長 鈴木 文彦  
電話番号 03-5730-2480

**難治性炎症性腸疾患の根治治療を可能にする**

**『核酸含有PLGAナノ粒子技術を用いた経口DDS製剤』の産学協同開発が  
戦略的技術支援事業【地域イノベーション創出研究開発事業】で採択**

当社は、ホソカワミクロン株式会社（以下、ホソカワミクロン）および森下仁丹株式会社（以下、森下仁丹）とともに大阪大学大学院医学系研究科（森下教授、他）および愛知学院大学薬学部（山本准教授、他）の協力を得ながら、現在、根治困難とされている【難治性炎症性腸疾患】の根治を可能にする治療薬の開発を進めてまいりましたが、この度、国家プロジェクト（経済産業省）の戦略的技術支援事業【地域イノベーション創出研究開発事業】（総括事業代表者：ホソカワミクロン・辻本広行）に採択され、合計 8,849 万円の助成を受けることが正式に発表されましたのでお知らせいたします。

<開発の背景>

- 1) 炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎・クローン病）は、10 代後半から 30 代前半の男女によく発生し、消化器系粘膜のびらん・潰瘍によって下血、下痢、腹痛を多発させる病気で、治療としては、自己免疫異常を抑えたり、炎症を抑えたりすることはできても、多くの場合、発症－治療を繰り返した後、大腸摘出手術が行なわれることとなります。
- 2) この対策として、近年、抗体医薬が開発され、世界約 100 カ国で 125 万人以上（国内約 10.5 万人）の人達がこの治療の恩恵を受けていますが、病院での点滴が必要で、治療費が高く、根治しがたいことから、患者負担を軽減し、かつ安全で安価な根治療法の実現が切望されております。

<世界初の根治を可能にする「核酸医薬を用いた経口 DDS 製剤」の開発>

・上記の背景から、我々産学 5 者は、互いの独自（特許）技術を持ち寄り、先端的治療薬である『核酸医薬』と『ナノ DDS 技術』を組み合わせることによって、患者に大きな負担を掛けず、安全で安価な根治医薬の開発を目指そうとするものです。

<共同研究実施 5 者の役割>

- 1) アンジェスは、炎症誘発因子の生成を遺伝子レベルで抑制し、根治治療への発展が期待できる核酸医薬『NF- $\kappa$ B デコイオリゴ』を開発。

- 2) ホソカワミクロンは、先端的ナノテクを用いて生体適合性高分子 PLGA に上記核酸医薬を封入させた複合ナノ粒子の設計および作製を実施。
- 3) 森下仁丹は、この核酸医薬封入 PLGA ナノ粒子を腸まで届けるため、胃酸に強く、腸内で分解するカプセル剤を開発。同時に、その品質・安定性評価および GMP 製法の確立を実施。
- 4) 一方、愛知学院大学とホソカワミクロンは共同して、上記 2) の複合ナノ粒子を配合した錠剤開発を行うとともに、その品質・安定性評価および GMP 製法の確立を実施
- 5) 大阪大学はアンジェスと共同で、上記 3) のカプセル剤および 4) の錠剤の 2 種の開発製剤の有効性、安全性、安定性評価を実施し、本製剤の臨床応用に向けての実現可能性をチェック。

なお、本件による本年度業績への影響はありません。

以上